●作品紹介
[レリーフ]

紙構造体シリーズ

Paper Construction Series

小林 範夫 Norio KOBAYASHI

PAPER CONSTRUCTION # 1 ケント紙・鉛筆 45×65×7 cm

PAPER CONSTRUCTION # 2 ケント紙・鉛筆 70×90×10cm

私は、形を考えるとときも造るときも紙を使います。紙は、イメージを視覚化する手段であると同時に、私を代弁する分身です。さらに言えば、気心の知れた幼なじみか、あるいは長年連れ添った古女房のような存在かもしれません。

もともとは、子どもの頃の紙工作に始まった紙との付き合いですが、ある時から展開図そのものに興味を持つようになりました。ケント紙に展開図を描いては組み立

てる展開造形の作業はそれ以来続いており、曲面の展開などいくつかの造形的な試みを重ねるうちに、いつしかケント紙の作品、PAPER CONSTRUCTION シリーズへと発展しました。

作品のコンセプトは、平面から立体へ。

展開図が、2次元の平面から立ち上がって3次元の立体を形成するように、作品の中でも、立体的な形が次第に平面から姿を現すイメージを表現しています。

PAPER CONSTRUCTION # 3 ケント紙・鉛筆 82×112×20cm

PAPER CONSTRUCTION # 4 ケント紙・鉛筆 160×180×45cm

一方、鉄や石といった手応えのある素材に比べ、ややもすると影の薄くなりがちな紙を、いかに存在感ある作品へ仕上げるかが作品づくりの鍵であり、軽さの克服が隠されたテーマのひとつです。そのため、PAPER CONSTRUCTION シリーズでは、何層にも鉛筆を塗り込んで、鉛のような質感を紙に与えました。はかない紙を強靱なイメージに変えようとする試みでしたが、図らずも、物質の表面構造を浮き出させて、素材の質感を強

調する結果となりました。

私にとって、鉛筆は素材に語りかける言葉であり、鈍く黒光りするマチエールは、素材と交わした対話の痕跡なのです。

●2004年11月9日受付

こばやし のりお

横浜国立大学教育人間科学部教授

1947年生まれ1978年東京芸術大学大学院修了

主として、国内外の企画展で作品を発表